

# 楯築遺跡

(2世紀後半)

～弥生時代の吉備を代表する大型墳丘墓～

## 目次

- おすすめポイント
- 現地の説明板
- 現地写真
- 「鳥の目」で
- 旋帯文石
- (参考) 出雲と吉備の交流
- アクセス

資料番号

K1

初版：2025.11.19



### 1. おすすめポイント

#### ★充実の現地説明板

「ふーん、ほんとだ。石が楯のように立ってる！」  
だけではもったいない！ 是非この遺跡の凄さ、  
不思議さを説明板で味わってください

#### ★立石

尋常ならざる立石にこめた弥生人の「思い」  
を考えてみて！

#### ★旋帯文石

収蔵庫の「のぞき窓」からご神体の「旋帯文石」を  
見ることができます。 この文様にこめられた  
弥生人の「情念」を想像してみてください！  
破碎された状態で発掘された弧帯文石との関係も！

※レプリカではなく「本物」です！



(注) 「旋帯文石」は文化庁により名づけられた。文としては旋帯、弧帯とも同じものを指す

## 2. 現地の説明板

## 駐車場にある説明板▶



2-1

2021.8

2-2

# 橋築遺跡

吉備地方には、大和朝廷が派遣した吉備津彦命が人々を苦しめた鬼神（温羅とも呼ばれる）を退治した伝説が残り、昔話「桃太郎」の原型になったとされています。

この橋樁遺跡の上には5つの巨石が立っています。伝説の中でこの巨石は、命が温羅の矢を防ぐために築いた楯とされ、名称の由来となっています。

橋築遺跡は、弥生時代後期（2世紀後半）の墳丘墓<sup>ふんきゅうぼ</sup>です。推定全長は約80mと当時の墓としては国内最大規模で、墓の主は強大な権力を持っていた人物と思われます。当時は橋築遺跡がある丘のふもと近くまで海が入り込んでおり、瀬戸内海を通じた大陸との交易により、力を蓄えたと考えられます。

There is a legend in the Kibi area that tells of how a prince of ancient Japan named Kibitsuhiko-no-Mikoto vanquished an ogre god (also known as Ura) who tormented the people. This legend is thought to be the model for the famous Japanese fairytale *Momotaro*.

Five great stones stand above Tatetsuki Ruins. In the legend, these are said to be shields that Kibitsuhiko-no-Mikoto constructed to defend against Ura's arrows. It is thought that these ruins, built in the second half of the second century, were the tomb of an enormously powerful person; at around 80 m long they would have been the largest in the country at the time.

▶ 説明文部拡大

◀ 地図部拡大



日本遺産「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」推進協議会



◆遺跡手前の休憩所にある説明板

2-4

2021.8

▶説明板（左）拡大

2-5

**楯築遺跡**  
国指定史跡  
昭和56年12月9日指定

JAPAN HERITAGE  
「桃太郎伝説」の生まれたまち　おかやま  
—古代古墳の遺産が語る風送治の物語～

弥生時代後期（2世紀末頃）に造られた墳丘墓。墳丘は、やや歪んだ円形を呈する円丘部とその両側に長方形の突出部をもつ特異な形をしていますが、突出部の大部分は、昭和40年代に行われた住宅団地造成の際に破壊されました。消滅した突出部を含む全長は約80mと推定され、同時期の墳丘墓では全国でも最大級の大きさを誇ります。

昭和51年から平成元年にかけて、岡山大学考古学研究室を中心となって発掘調査を実施し、遺跡の全体像が明らかとなりました。

5個の巨大な立石がある円丘部からは、2基の埋葬施設が確認されました。このうち中心主体となる埋葬は、円丘中央部に掘られた長さ9mの巨大な墓壙を伴い、木棺の外側を木の板で囲んだ木棺木槨構造であることがわかりました。木棺内には鉄剣1口と、勾玉や管玉、ガラス製小玉などの玉類が副葬されていたほか、歯の小片2点も検出されました。また、棺の底には、

総重量32kgを越える大量の水銀朱が分厚く敷き詰められています。木棺の上方は大量の円礫で埋め戻されており、その中から、特殊器台や特殊壺といった供献土器をはじめ、人形土製品や土製の玉類などが出土しました。また、墳丘の脇にある収蔵庫に納められている旋帯文石（国指定重要文化財）と同様の文様を持つ小形の石（弧帯文石）が、意図的に割られた状態で発見されており、このふたつの石の関係が注目されます。

南西突出部の調査では、その先端が給水塔のフェンスの下に残存していることが明らかとなり、平らな面を外側にして立てられた列石が良好な状態で検出されました。また、突出部の前面では、尾根を切断するように掘られた大溝も確認されており、墳丘墓の造営がかなり大規模なものであったことがわかります。

楯築遺跡は、弥生時代から古墳時代にかけての墓制の変遷を考える上で重要な遺跡であるとして、国の史跡に指定されています。

倉敷市教育委員会

▶説明板（中）拡大

2-6

**Tatetsuki Ruins**

The Tatetsuki Ruins site is a burial mound constructed during the late Yayoi period (near the end of the 2nd century). It is constructed in the characteristic shape of a circular area nearly 40 meters in diameter with rectangular areas jutting out from both sides. Its full length is estimated at approximately 80 meters, and is one of the largest burial mounds in Japan to be constructed during this period.

On the mound stand five massive stones, and in the past, round stones were spread on the slopes. In the center of the circular area, a large 9-meter-long grave was dug, with a wooden coffin put inside. An iron sword, gems, and other burial items were discovered in the wooden coffin, with numerous pieces of cinnabar spread around its bottom. Peculiar kotaimonseki stones—stones inscribed with circular band patterns—were also discovered and received attention for the way they were deliberately cracked.

This is a vital site in knowing the changes of burial practices occurring in this region from the Yayoi period to the Kofun period (around 400 BC–AD 700).



① 墓丘測量図



② 墓丘復元整堂図



③ 捜出された木棺骨（東から）  
木棺内部ははぎって残っていないが、蓋の内側によってその大きさがわかる（木棺全長約2m）。



④ 塗ぬかとなった中心主体部の空堀  
空堀中央部に、木棺底部に埋設された矢が斜めかにみえる。木棺跡から半周に延びる石垣は1辺あたり約2mで、石垣裏では古い、基層内に見えた土手次の高まりは、土留壁使用に付いているもの。



⑤ 木棺内部の副葬品  
や丸形容に見えるねじや管玉の一種あたりれ、中心主体の跡跡にあたる。その左には、鉄剣が置かれている。

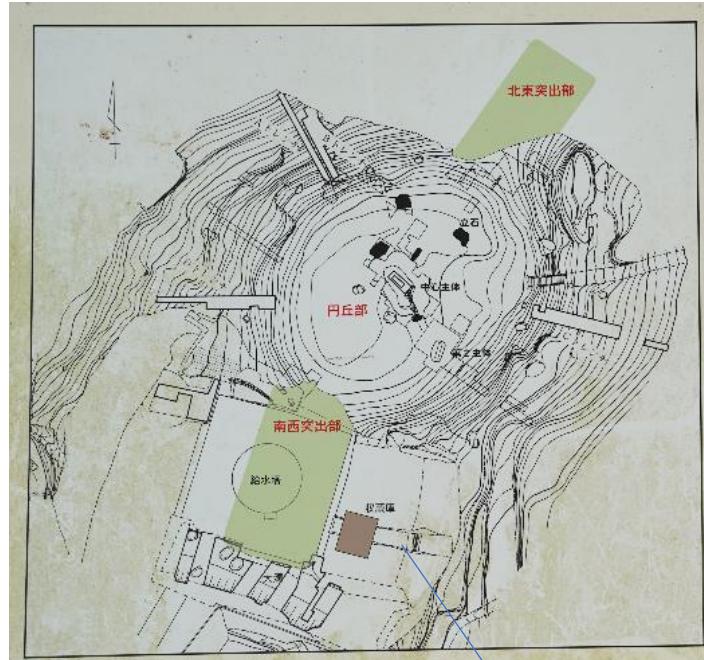
▶説明板（右）拡大



2-7

2021.8

▶説明板（中）右上図拡大



① 墓丘測量図



② 墓丘復元想定図

2-8

※給水塔は撤去されて  
今はりません

「旋帯文石」収蔵庫

2021.8

▼遺跡に隣接する収蔵庫

2-9



▼収蔵庫両側面の縦長のぞき窓  
から見える「旋帯文石」

※レプリカではなく「本物」です！



2-11

2021.2



2-10

▲収蔵庫そばの説明板

2-12

▶説明板右上写真拡大



▼説明板拡大

**せんたいもんせき**

**旋帯文石**

国指定重要文化財  
昭和57年6月5日指定

隣にある収蔵庫に納められているこの石は、かつて楯築遺跡の上に建てられていた楯築神社の御神体で、円丘上に今も残る小さな石の祠に長らく安置されていました。石の表面には、帯が円を描きながら複雑に絡み合う文様が彫り込まれており、その様子は収蔵庫の窓越しに見ることができます。正面には、顔と思われる表現が浮彫りにされており、地元では別名「亀石」とも呼ばれています。

この不思議な文様を持つ石は他に類例がなかったため、その性格や製作時期については長らく謎のままでした。しかし、岡山大学が実施した楯築遺跡の発掘調査で、旋帯文石と同じ文様をもつ小形の石(弧帯文石)が出土したことから、この石は、楯築遺跡と同じ弥生時代の終わり頃に作られたものであることが明らかとなりました。

倉敷市教育委員会

JAPAN HERITAGE

【株太郎伝説】の生まれたまち おかやま  
~古代吉備の遺産が語る県祖治の物語~

Sentaimonseki Stone

The Sentaimonseki Stone is stored in the repository next to the Tatetsuki Ruins. This stone was once an object of worship at Tatetsuki Shrine, which used to be on the mound area of the Tatetsuki Ruins. The size of the stone measures approximately 90 centimeters in length and width, and near 35 centimeters in thickness. Its entire surface is inscribed with circular bands intricately interweaving into one another. At its front is a relief carving resembling a face. The stone can be seen through the window of the depository.

In the past, the age of the stone's inscriptions was unknown, but thanks to excavations at the Tatetsuki Ruins site conducted by Okayama University, we now know through the unearthing of stones with the same patterns carved into them (kotaimonseki stones), that the Sentaimonseki Stone was created around the end of the Yayoi period (400 BC – AD 300) when the Tatetsuki Burial Mound was built.





日本語 | English | Français | 中文 | 繁體字 | 简体字 | フリ高町

携帯電話リーフレット

## 2追. 現地の説明版（捕捉）

以下、本遺跡の特徴、意義を「宇垣 匡雅. 横築遺跡（新日本の遺跡4）. 同成社, 2024, 124p.」より部分引用させて頂きます。

この遺跡の「凄さ」を感じ取ってください！

- ・ 遺跡が築かれたのは弥生時代後期後葉（2世紀後半）  
**最初の前方後円墳が築かれるより100年近く前**
- ・ **大柱**（推定高さ10mレベル）は**九州**で発達した墓の付属施設（九州以外でこれが設けられたのは本遺跡のみ）
- ・ 埋葬施設を挟むように**木柱**が2本
- ・ 南西突出部には中心埋葬に次ぐ規模の埋葬が所在（**方形部も埋葬の場**として重要な位置づけ）  
⇒**古墳の前方部の原形となつた**と考えられる
- ・ 中心埋葬の上には**円礫堆**が作られていた  
円礫堆に含まれる遺物は葬送の祭祀に用いられた器財  
二度と使われないよう焼いたり割られたりしている
- ・ **木槻**は中国で成立、発展した埋葬施設  
**木棺**に敷かれた朱は被葬者の頭部で最大厚さ8cm、用いられた**朱の量は32kg**、後の古墳での大量使用例を含めても屈指の量
- ・ 木槻の被葬者頭部側の外側には**排水溝**が設けられている。  
⇒木槻、排水溝など**大陸由来**の埋葬施設は倭国で初現

- ・弥生墳墓として土器出土量は全国一レベル  
(土器を置く清浄な面として円礫が敷かれた)  
墳頂ではうかつに歩くと土器を踏みつぶしかねない状況、  
墳丘斜面にも**後の円筒埴輪列を思わせるような土器のベルト**がめぐっていた。 ⇒空前の規模のまつり

## 葬送の思想

- ・旋帯文石の顔は神の顔であり、神が宿るもの、神の依代として作られた
- ・大柱など柱群は神に来てもらうための施設
- ・死後「たましい」は魂と魄に分かれ、魂は天に帰し魄は地に帰す（古代中国の思想）。魄は地中の木槻内にとどまり、魄は神となって旋帯文石に宿ると信じられたのではないか

## 遺跡の諸要素

【それまで吉備でつちかわされたもの】

- ・特殊器台や特殊壺 ⇒ 古墳の要素として引き継がれる
- ・弧帯文（旋帯文）
- ・斜面の列石

【他地域から導入されたもの】

- ・木槻（大陸から）
- ・大柱（北部九州から）
- ・墳丘の丸い平面形（播磨あるいは摂津地域から）

【新たに創出されたもの】

- ・大きく立体的な墳丘を築き、「見せる」要素
- ・円礫敷と立石

以上、「宇垣 匡雅. 横築遺跡（新日本の遺跡4）. 同成社, 2024, 124p.」より部分引用

### 3. 現地写真

2020.8



3-1

立石1～4で囲まれるエリアには木造の建物があったようです（※）

2020.8



3-2 中心埋葬と木柱、大柱の位置概略（※）

※「宇垣 匠雅. 樅築遺跡（新日本の遺跡4）. 同成社, 2024, 124p.」の内容をもとにイメージ作図

2021.2



3-3



3-4

斜面立石

▼立石 4

▼立石 1 ▼立石 2 ▼立石 3

2021.2



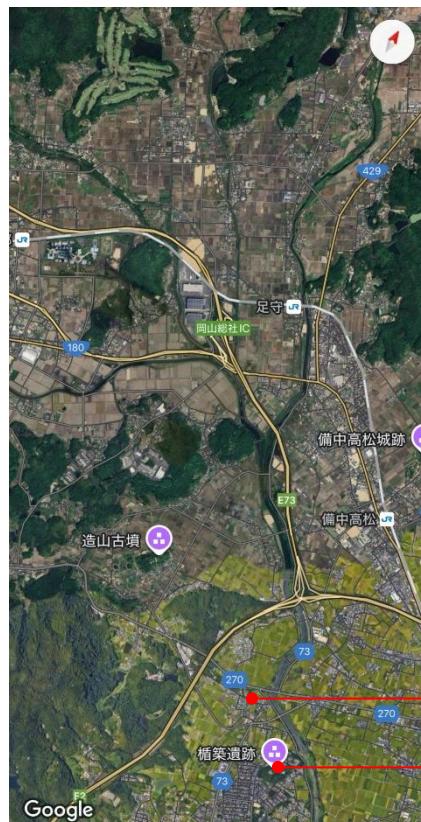
## 4. 「鳥の目」で



4-1

給水塔は撤去されて  
今はあります

北方を望む



4-2

鯉喰神社 (弥生式墳丘墓)

楯築遺跡

2021.2



楯築遺跡

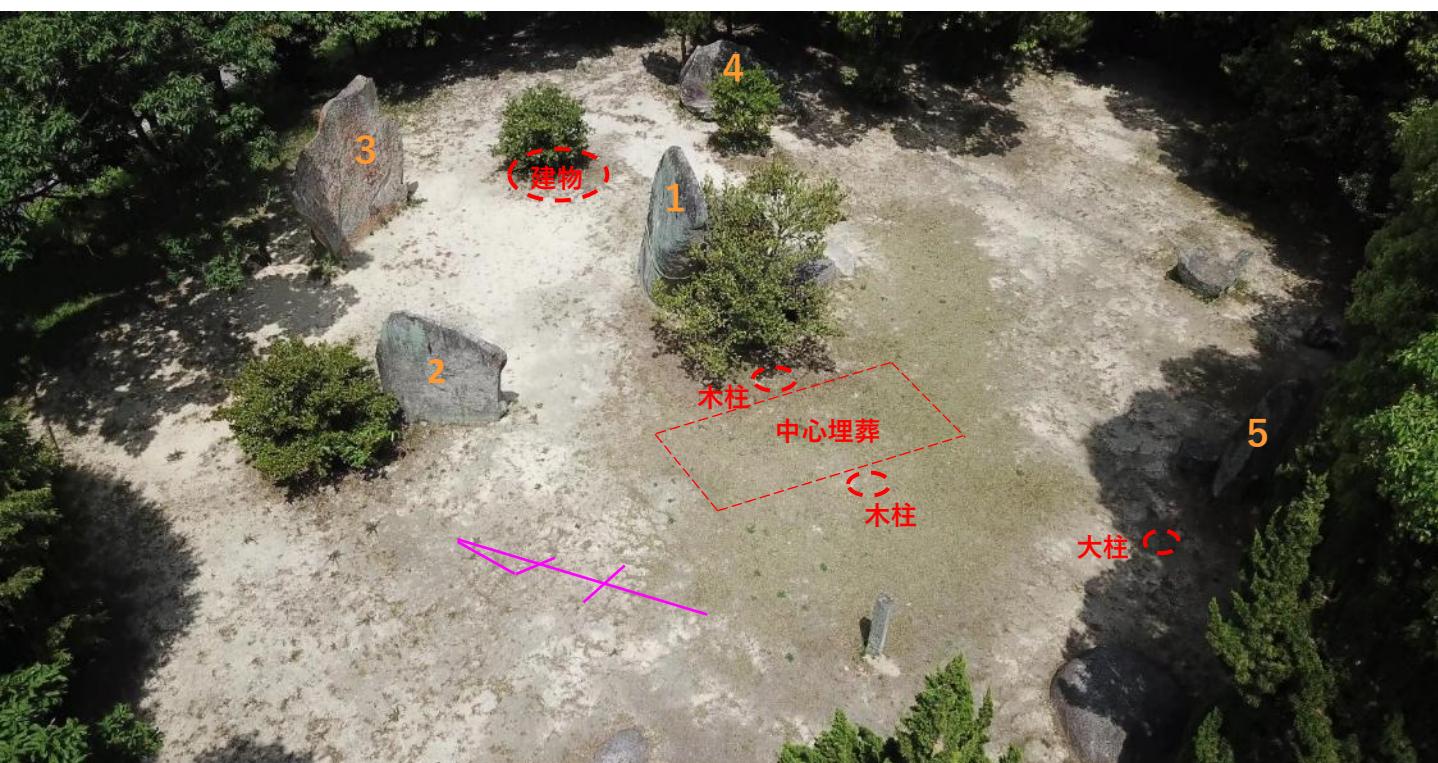


4-3

当時は南方近くまで海岸線が迫っていた。遠方の早島丘陵は完全な「島」だった。  
東・北・西からは墓が良く見えたはず

南方を望む

2020.5



4

(建物)

1

2

3

5

木柱  
中心埋葬  
木柱

大柱

4-4

立石の配置、施設の配置

※「宇垣 匠雅. 樅築遺跡（新日本の遺跡4）. 同成社, 2024, 124p.」の内容をもとにイメージ作図

## 5. 旋帯文石

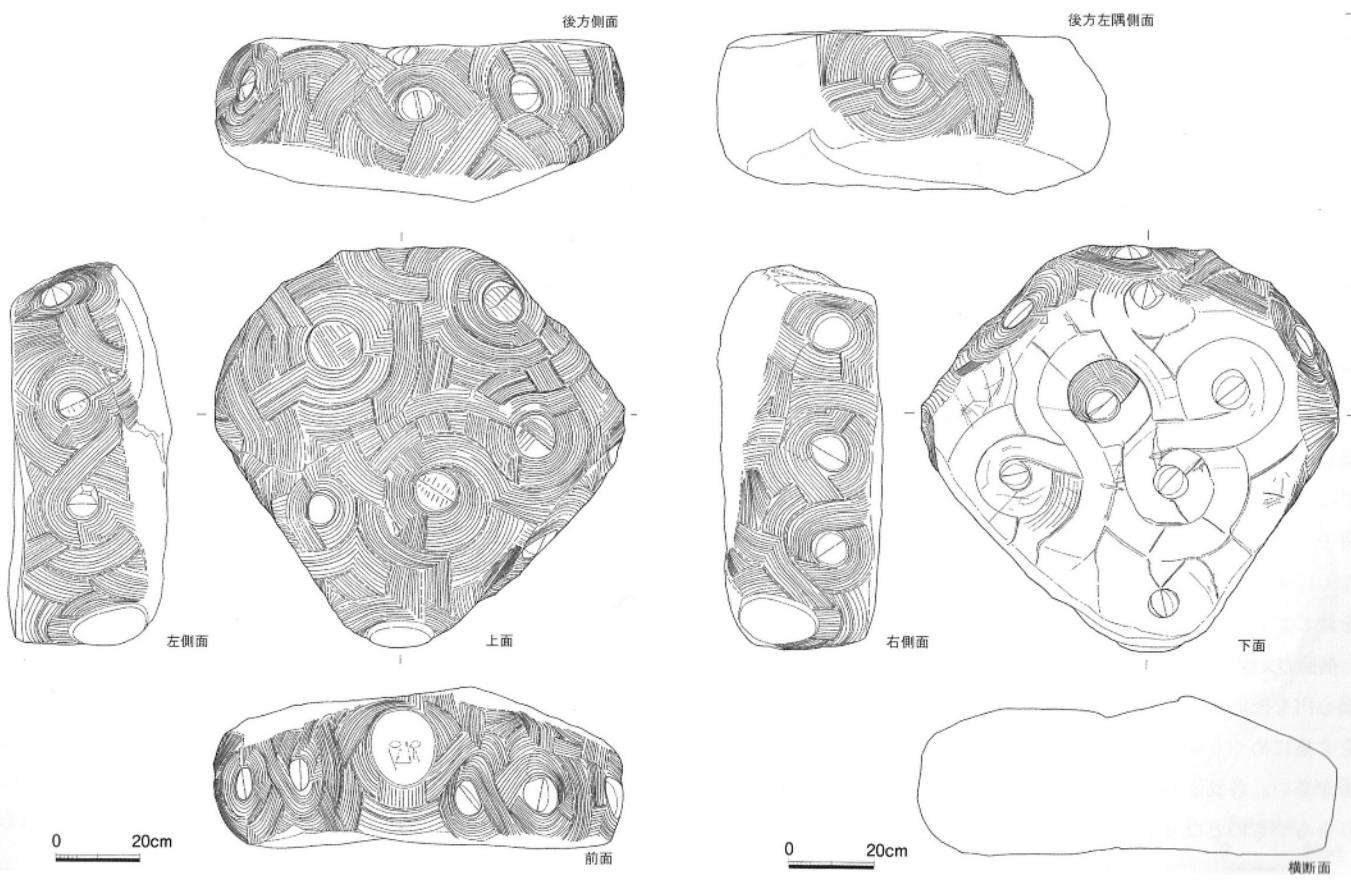
忘れられたこと也有ったかも知れませんが、こうして  
**2000年近く「ゆかりの地」で地元の方々に大切に守り継  
 がれてきた**ことは尊く、奇跡のように感じます。

▶現地説明板右上写真

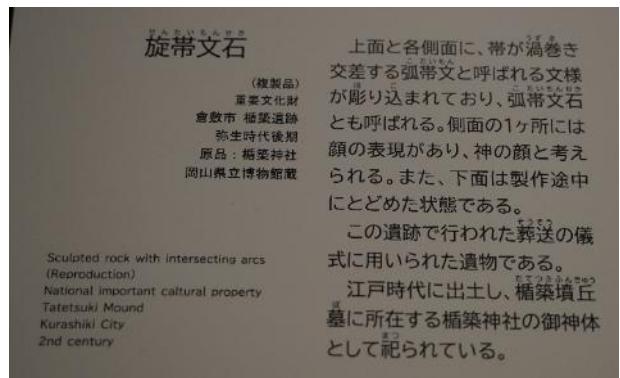


5-1

※ 下図 「宇垣 匡雅. 樅築遺跡（新日本の遺跡4）. 同成社, 2024, p98-99.」より引用



後楽園に隣接する岡山県立博物館では下写真のように旋帯文石のレプリカを常設展示しており、じっくり観察することができます。驚きの文様に秘められた情念を想像してみてください。



5-3

2025.4



5-4

↑  
顔の表現



5-5

顔に対して左側面



5-6

顔に対して右後方（反対面）

## 5追. 旋帯文石（捕捉）

### ～旋帯文（弧帯文）石の不思議～

顔（神の顔？）の表現を持つ旋帯文石はそのままの姿で後世に伝わり  
焼き碎かれた小ぶりな弧帯文石は土に埋もれ現世に発掘された。

5-7



現地説明板右上写真

この2つの石の使い分けには  
どのような情念が働いたのだろう？

- ・円礫
- ・**破碎された弧帯文石**
- ・土器片、土製品片
- ・鉄器
- ・モモなどの種子炭化物
- ・サヌカイト片

時が経ち、朽ち果てた木槧、木棺の空間に**円礫堆**が陥没して土に埋もれた状態で発掘された

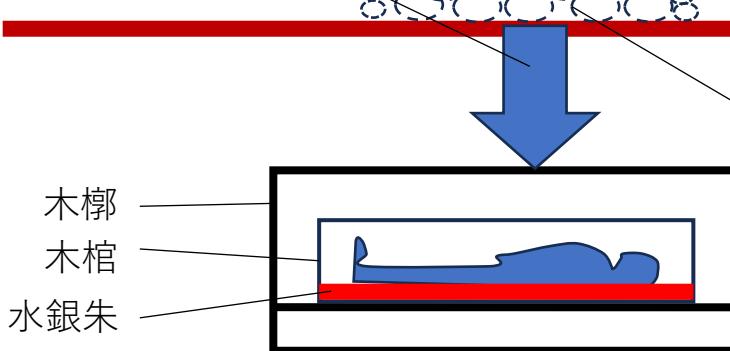
関係は？  
どのような情念で？

ご神体として守られてきた旋帯文石

→

地面

出土した弧帯文石



5-8



(現地説明板より写真⑫)

5-8 ※「宇垣 匡雅. 橋築遺跡（新日本の遺跡4）. 同成社,  
2024, 124p.」の内容をもとにイメージ作図

**焼き碎かれていた**

大きさは旋帯文石の1/9程度。  
旋帯文石と同様の文様が施されている。

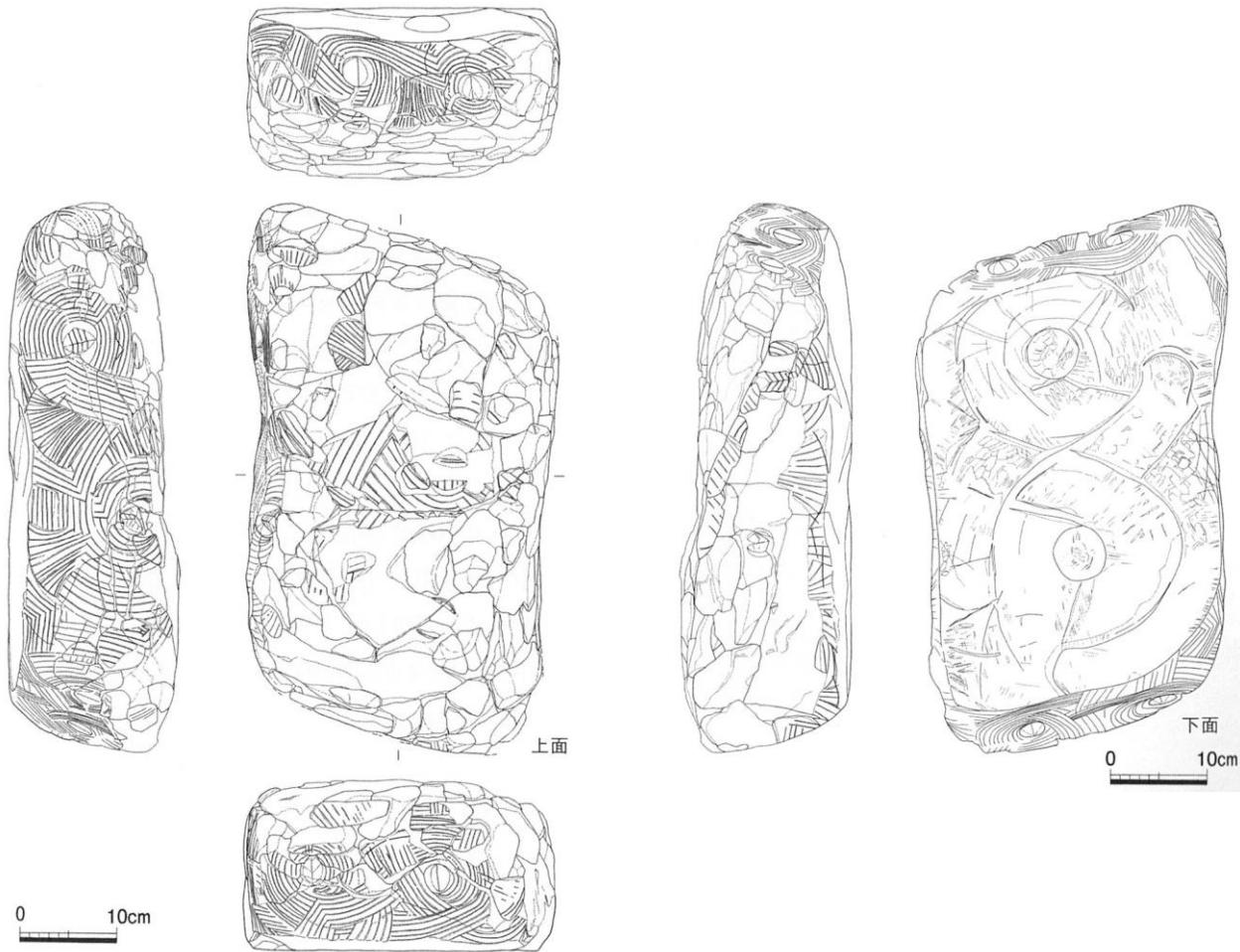
## 破碎された状態で出土した弧帯文石



5-10 (現地説明板より写真⑫)

左写真では半ば復元されていますが、参考文献1によると葬祭時に**焼き碎かれ**、前頁のように木棺の上の位置に他の物と一緒に小山のように盛られていたようです。復元には大変なご苦労があったとのこと。

※ 下図 「宇垣 匡雅. 樅築遺跡（新日本の遺跡4）. 同成社, 2024, p92-93.」より引用



## 6. (参考) 出雲と吉備の交流

### 「出雲弥生の森博物館」展示

2023.8

※写真にて引用 青字以外は管理人が記述

#### ● 「出雲の弥生ムラ」に関する展示



「吉備から運ばれた特殊土器」

6-1

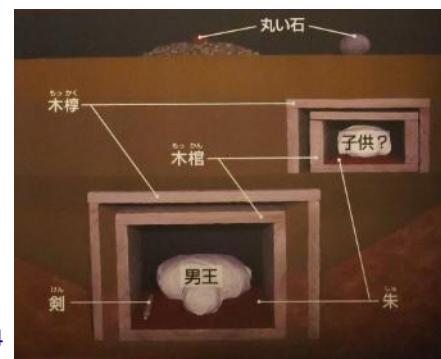
「よつがね」ムラ（矢野遺跡）は大型特殊器台を出土する唯一のムラ

#### ● 西谷3号墳に関する展示

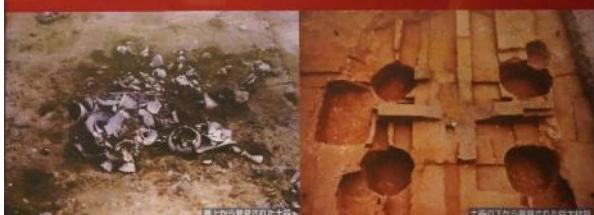
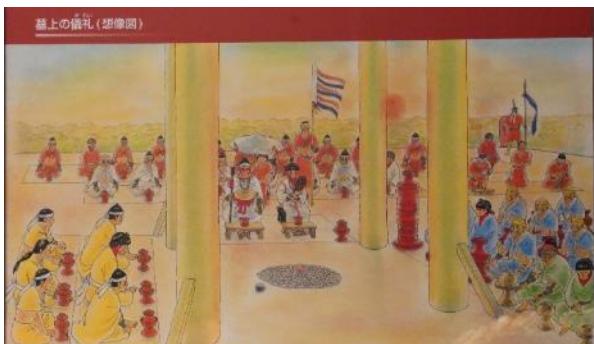
吉備から運ばれた葬儀用土器



6-3



6-4



6-5

6-2



断面が▲形の穴は旋帯文(弧帯文)石と同じ意匠です。  
土器では珍しい?

- 吉備から特殊土器が運ばれ、おそらくまつりにも参列したのでしょう
- 柱を立てることや、木棺の上の位置に石や礫を置くことなどの意図は楯築と通じるものがあるのかもしれません

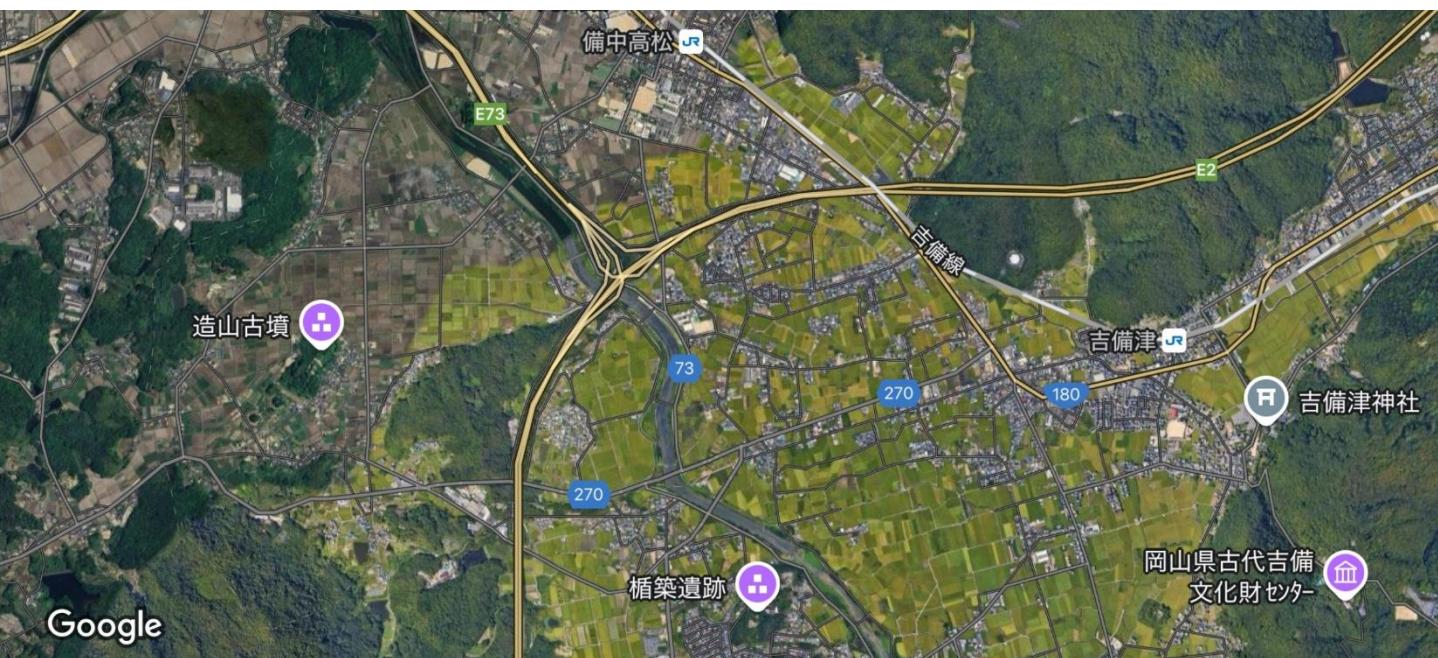
出雲と吉備の密接な交流が伺われます

(楯築との直接的な関係は不明です)

「4本の柱」は諏訪大社の「御柱」と関係があるのでしょうか?  
古事記の「国譲り」で建御名方は諏訪に逃げたことになっています

## 7. アクセス

JR吉備津駅、備中高松駅 どちらからも車で約15分くらいです



7-1

駐車場もあります



7-2

## 参考文献

- 1) 宇垣 匡雅. 檜築遺跡（新日本の遺跡4）. 同成社, 2024, 124p.